

新潟大学図書館における「情報リテラシー」への取組

附属図書館 情報調査係長
西脇 紀子

1. 前書き

図書館では、利用者に対して様々なガイダンスを行っている。なかでも「情報検索」や「文献を探す」という主題に特化したガイダンスについて、図書館の取り組みを紹介する。

2. 沿革：ガイダンスから情報リテラシーへ

1) 1992年～1995年

現系の前身である参考調査係に所属していた1990年頃より、秋の卒業論文にとりかかる時期になると、論文の探し方や複写の申込み方法などについて問い合わせが、学生から多く寄せられた。それらに個々に対応しつつも、相談に応じられる人数の限界や、学生間の情報の格差が生じていることを感じるようになった。そこで1992年に「資料の探し方ガイダンス」を4年生・院生を対象に始めた。最初の年は、一挙に総数312人もの参加者があった。その後、希望者が多くなり、対象を3年生までに広げ、開催も春・秋と年2回行うようにした。

2) 1996年～1998年

上記のような「資料の探し方ガイダンス」に、大きな転機となったのが1996年であった。新潟大学大学教育開発研究センターと連携し、教員と共に授業として後期教養科目「情報検索とその活用」を担当した。共同してカリキュラムを作成し、図書館員（9人のチーム）が出講した。この授業は1997年まで2年間行った。

そして1998年に、集大成としてテキスト（「情報図書館：大学で役立つ情報検索」85p）を完成した。

さらに、この授業としての取り組みが、全国初の試みとして評価され「図書館協会賞受賞」することとなった。

3) 1999年～2010年現在まで

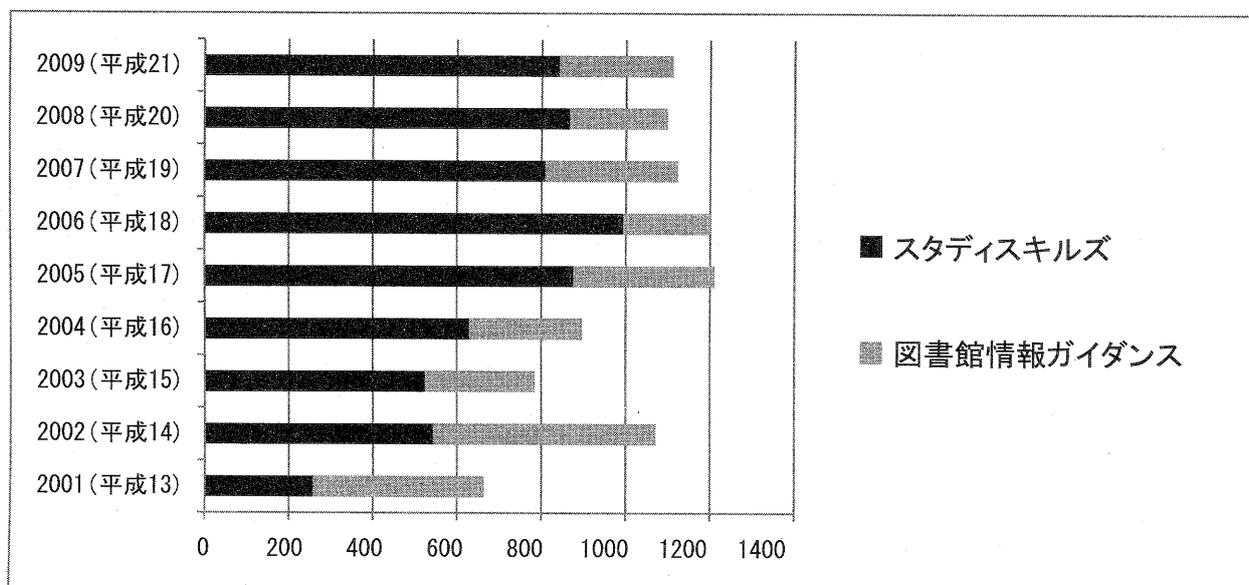
それ以降、図書館のガイダンスも毎年、種類を充実させ、参加者も増えてきた。教員からも、授業の1コマとして実施して欲しいという要望も毎年いただくようになり、年2回春・秋季にスタディスキルズとして定番の行事となっている。現在、図書館が行っている情報ガイダンスは次のとおりである。

実施プログラム

- ①スタディスキルズ 春・秋2回
教員の依頼・授業の枠組みで実施
内容はオーダー制 相談の上決定
- ②資料の探し方ガイダンス 春・秋2回
個人（2人から）、ゼミ単位
時間・内容はオーダー制 相談の上決定
- ③データベース講習会 春・秋2回
・Web of Science
・SciFinder（化学関係）
・EndNote
- ④電子ジャーナル講習会 随時

3. 統計

ここで、2001年から2008年までの参加人数の統計を示す。



4 次のステージへ

1) 教員と図書館員の連携

図書館は、これまで行ってきた情報ガイダンスを踏まえながら、学生のニーズの変化や情報技術の高度化にも対応すべく、次のステージへと進む時期を迎えているように思う。図書館は、2010年5月に「教育・学習支援機能の充実を図るため「ラーニング・コモンズ」という施設をオープンした。「ラーニング・コモンズ」は、自主的、自立的な学習活動を支援する「学びの場」、「創造の場」、「発想の場」、図書館資料とネットワーク資源を活用するスペース、学生同士がコミュニケーションを取り合い、共同して学ぶことのできるスペースである、これまでの図書館空間とはひと味違った雰囲気オープンスペースで、個人学習はもちろん、ゼミやサークルでのグループ学習もできる。連日、おおくの利用者で賑わっている。ここで、現在情報ガイダンスも行っているが、申込み者以外でもオープンに参加ができる。さらにラーニング・アシスタント等のスタッフが付くようになる予定である。また、文献情報リテラシーをより多くの学生に何らかの形で受講してもらおうべく、教員との連携を深め授業の一環としてできるよう、努めている。

2) 不可欠な要素

授業との連携のためには、図書館員としても、さらなる情報リテラシー能力の向上を図っていきたい。

5 さらなる図書館活用を

図書館は、利用者により一層、使ってもらえる図書館になるために、情報ガイダンスを充実させ、様々な資料やデータベースの紹介を続けていくことが必要である。そのため次のような、全学年への情報ガイダンスを用意すべく検討している。

- ① 新入生向け「情報入門」コース
- ② 2年生「情報ステップアップ」コース
- ③ 3、4年生「論文のための情報ガイダンス」
- ③ 個人・ゼミ向けオーダーセミナー
- ④ 院生・教員向け各種講習会

6 最後に

平成21年度「特色ある大学教育支援プログラム」から次の言葉は引用して終わりにしたい。

“図書館活用法は、「知識基盤社会」における知力を備えた強い「個」の創出につながる。”